



明るい漁村

迎春



美保関町

CONTENTS

新年のご挨拶 JFしまね会長 岸 宏	2
新年のご挨拶 島根県知事 溝口善兵衛	3
全国漁業代表者総決起集会	4
石東地区漁業・漁村振興対策～大田市場総合計画	4

第32回島根県海の子絵画展審査会開催	5
浜の声～小川守さん(JFしまね島根町支所所属)	6～7
浜の出来事 ～魚食普及・食育活動～	7
事業部だより・温かい真心に感謝	8

新年のご挨拶



漁業協同組合 JFしまね
代表理事会長 岸

宏

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年3月に発生した東日本大震災では、多数の尊い人命が失われ犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしますと共に、被災者皆様方の一日も早い再起と被災地の早期復興を心よりお祈り申し上げます。

大規模な津波被害や同時に発生した福島第一原子力発電所事故による放射能問題等により、日本経済はもとより、私たち水産業界においてもかつてない厳しい試練に直面しております。

全国JFグループでは被災漁業者への支援と被災地の復旧・復興及び原子力発電所事故問題に引き続き取り組んでおり、本県JFしまねにおいても、水産分野の復興に対し必要な支援・要請活動を行う一

方で、本県漁業者皆様方の復興を願う熱い思いにより義援金を被災漁業者及び一般被災者皆様へ贈ることができました事に心から感謝し厚くお礼申し上げます次第であります。海を生業の場とする仲間である被災漁業者皆様や被災地の復旧・復興を強く願い、今後も引き続き支援活動に取り組んで参る所存であります。

さて、漁業協同組合JFしまねが誕生し6年が経過しましたがその間、「組合員の所得の向上」を目標に、皆様方のご支援・ご協力を賜りながら、鋭意事業を推進して参りました。

厳しい漁業環境が続く中、漁業経営を大きく左右する漁業用燃油においては、価格の急激な上昇に備えた「漁業経営セーフティー

ネット」が事業導入後初めて発動するなど、依然として燃油価格の高止まりが続いており、今年度末までとされた軽油取引税免税措置及びA重油特例措置の延長が決まりましたが、引き続き国に対し免税措置の恒久化等を求め強く働きかけていくこととしております。

一方で、経営の合理化や鮮魚流通の効率化を目的として進めて参りました市場統合につきまして、大田市管内4箇所を和江に統合することを決定し、これまで数回に亘り試験販売を実施しながら改善点等について漁業者並びに買受人との協議を重ね、来年9月からの運用を目標に、本年8月より荷捌所等の新設工事に着手することとしております。また、出雲市管内3市場を集約する新大社市場建設につきましても、本年2月に完成し、4月に運用開始予定となっております。

新たな水産物流通拠点として稼動しております恵曇冷凍冷蔵庫においても近隣市場との連携を図り、地元・半島部はもとより、隠岐地区まき網船団を誘致しながら、鮮魚及び加工原魚の魚価向上を図ると共に、資源回復の兆しにある魚種を含め昨年一年間を通じ、まき網船による漁獲が順調に推移した境港支所管内における処理機能の回復や荷受体制の具体的

な整備についても随時検討していくこととしております。

また、予てより懸案事項として参りました浜田地区の沖合底びき網漁船の老朽化問題につきましまして、浜田地域水産業構造改革推進プロジェクトのもと、船体の長寿命化や省エネ操業、付加価値向上などを目的とした大規模修繕でのリシツプ事業が国の認定を受け、今後、浜田港における生産力・販売力の強化や流通における販路開拓と併せ具体的に取組んで参ります。

最後に、総会の特別決議として採択頂いた竹島問題については、風化されつつあるやの懸念すら抱く現状であり、私共は改めて、竹島問題を全国的な漁民運動として強力に展開していく所存であります。

今なお厳しい状況下にある水産業ではありますが、「JFしまねの経営強化」を第一に考え、組合員、役員が一丸となり「挑戦」を合言葉に、「ゆるぎない信念とたゆまざる努力」をもって着実に課題を解決しながら積極的に事業を展開することで必ずや飛躍の年となることと確信致しております。

組合員の皆様の一層のご繁栄とご健勝、そして今年一年が海上安全、豊漁の年となりますよう心よりお祈り申し上げます新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶



島根県知事

溝口 善兵衛

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、大規模な自然災害が、多くの漁業・水産関係者の生命や財産を奪い去り、改めて自然の恐ろしさを思い知らされた年でした。一月の山陰両県を襲った大雪では、多くの漁船が沈没するなどの被害を受けました。さらに、三月の東日本大震災では、多くの方々がお亡くなりになり、漁村・漁港の集落や施設が津波により壊滅的な被害を受けました。

東日本大震災で犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地や

被災された皆様の日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

島根に限らず我が国の沿岸部地域は、漁業が産業の核であり、地域を支えています。地域の復興のためには、生活の糧であります漁業・水産業の一日も早い復興が望まれています。

しかしながら、福島第一原発の事故による大量の放射能の放出や海洋への放出は、魚介類などへの放射能汚染を引き起こしています。この問題の長期化が復興の妨げになることを強く懸念しています。

貴組合におかれましては、震災

後、いち早く対策本部を立ち上げ、復興のための募金や被災者受入などの支援活動に積極的に取り組んでおられます。こうした迅速な活動を行われましたことに対し、深く敬意を表する次第であります。

県といたしましても、貴組合が進めておられます被災者の漁業への受入れや、被災地で操業できなくなった「まき網漁船」の浜田漁港での受入体制の整備などへの支援をいたしました。引き続き貴組合と連携し、被災地の復興支援に取り組んで参ります。

さて、島根の漁業は、燃油価格の高止まりや魚価の下落など、引き続き厳しい状況下にあります。こうした中、イワシなど一部の資源が回復の傾向にあり、漁獲量が増大するなど明るい兆しも見られます。

また、長年の懸案でありました浜田地区の「沖合底びき網漁船」の老朽化問題につきましては、漁船の大規模修繕により長寿命化を図り、その間にコスト削減や漁獲物の付加価値向上などに取り

組み、収益性の改善を行う漁業構造改革計画が国の認定を受け、今後、具体的な取り組みが始まるところであります。

さらに大田地区の漁業・漁村の活性化の取組みの一つであります市場統合につきましても、今年から荷捌所などの施設整備が始まります。

こうした皆様の取組みが成果を発揮し、島根の漁業・水産全体が一層活性化することを強く願っております。

県としましても、こうした貴組合の取組みを支援し、島根の水産業が持続的に発展するよう努力して参ります。

終わりに、本年が皆様にとりまして幸多い年となりますとともに、島根の水産業の益々の発展を祈念しまして、年頭のご挨拶と致します。



漁業用軽油にかかる軽油引取税の 免税措置の恒久化を求める

全国漁業代表者総決起集会開催

去る11月9日、東京・千代田区の砂防会館において、「漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置の恒久化を求める全国漁業代表者総決起集会」が開催され、全国から約1500人が集結し、本県JFしまねからも岸会長をはじめ、金坂副会長、岡野副会長、牧野副会長ら役員18人が参加しました。

集会では冒頭、JF全漁連服部会長より、「漁業者は大変厳しい状況に置かれており、これ以上の負担には耐えられないのではないか」、「漁業用軽油の免税措置が打ち切られれば、漁業者の暮らしは崩壊してしまう」、「漁業者の生活、経営を維持していくためにも、漁業用軽油にかかる免税措置の恒久化を強く求める」と挨拶があり、続いて漁業関係代表者2名より、

現状と軽油の免税措置恒



デモ行進をする本県漁業代表者

久化への取組みを求める意見表明が行われ決議文が読上げられ、満場の拍手で採択されました。

決起集会終了後、参加者全員が国会議事堂・議員会館・霞ヶ関周辺をシュプレヒコールを上げながらデモ行進し氣勢をあげました。

後日開催された政府税制調査会において、恒久化の実現には至らなかつたものの、3年間の軽油取引税免税措置及び2年間のA重油特例措置の延長が決定されました。

石東地区漁業・漁村振興対策

～大田市場総合計画～

石東地区漁業・漁村の振興を図るため、小型底曳網漁業の協業・減船による再編合理化及び現在の久手、和江、五十猛、仁摩の4市場の統合について、JFしまね・行政・漁業者からなる石東地区漁業・漁村振興対策協議会を中心に協議を重ねて来ましたが、中でも市場統合については具体策の検討や組合員・買受人との意見交換を重ねて参り、機能や取扱高などから和江（現大田支所）に統合することを決定し、島根県並びに大田市へ施設整備等の支援要請をはじめ、流通機能の改善や試験販売を実施しながら問題点を改訂した協定について協議を進め、平成25年9月からの運用開始を目標に、本年8月より新市場建設工事に着手することとしています。



試験販売の様子

～これまでの動き～

平成21年12月	石東地区漁業・漁村振興対策協議会 設立
5月	久手、和江、五十猛、仁摩・温泉津の4地区の組合員座談会
5月	第4回石東地区漁業・漁村振興対策協議会 (統合市場場所選定について協議した結果、和江水産物卸売市場を選定)
平成23年1月	石東地区買受人説明会(統合市場計画について説明)
6月	第1回統合市場試験販売実施(8～10日:3日間)
7月	第2回統合市場試験販売実施(6～8日:3日間)
	第3回統合市場試験販売実施(13～15日:3日間)
8月	第4回統合市場試験販売実施(7～9日:3日間)
10月	統合市場先例地視察 山口県:萩市場、高知県:宿毛市場(19～20日)
11月	小型底曳網船漁獲物試験販売実施(2日、18日:2日間)
平成24年8月	施設整備工事着工(予定)
平成25年9月	統合市場運用開始(予定)

第32回 島根県海の子絵画展 審査会開催

去る10月9日(金)島根県水産会館において、第32回島根県海の子絵画展の審査会が開催されました。

県内の小学校59校から375作品が寄せられた審査会の結果、最優秀賞の島根県知事賞に、越野陽向さん(低学年の部・松江市揖屋小)、小笠原利香さん(中学年の部・大田市大代小)、酒井俊志君(高学年の部・松江市母衣小)の3名の作品が選ばれました。

審査委員長の石野眞島根大学名誉教授は、「子ども達の海や魚、漁業に寄せる思いを込めて描いた作品が多く、多彩な色彩、高度なテクニクを用いた表現など子ども達の豊かな構想力、表現力と一人一人の個性を感じることができた」「実際に見たり感じたり想像しながら描く作品を通して、島根の海や魚、漁業に対してより関心を抱き、また美味しく魚を食べることを期待する」と総評を述べられました。

尚、島根県知事賞を受賞した3作品を全国海の子絵画展へ出展した結果、越野陽向さんの作品が見事、農林水産大臣賞を受賞しました。

◆島根県知事賞 (3名)

高学年の部	中学年の部	低学年の部
海の森	乗ってみたいイカつり漁船	うみにもぐってさかなを見たよ
		
		
松江市立母衣小学校 5年 酒井俊志くん	大田市立大代小学校 3年 小笠原利香さん	松江市立揖屋小学校 2年 越野陽向さん

◆農林中央金庫賞 (3名)

学校名	学年	氏名	性別	題名
西ノ島町立西ノ島小学校	2	山口翔太郎くん	男	大きなタコをみつけたよ
大田市立大田小学校	3	小泉 遼哉くん	男	みのカサゴの絵
出雲市立東小学校	6	有田颯太郎くん	男	海と友だちになれるといいね

◆山陰中央新報社賞 (3名)

学校名	学年	氏名	性別	題名
松江市立恵曇小学校	2	草本 拓人くん	男	恵曇の船はすごいよ
海士町立福井小学校	4	高橋 拓也くん	男	あっサザエ発見
益田市立安田小学校	6	渡邊莉陽香さん	女	静かな海

◆漁業協同組合 J F しまね会長賞 (6名)

学校名	学年	氏名	性別	題名
海士町立福井小学校	2	澤井 虎伯くん	男	魚がいっぱい
松江市立鹿島東小学校	1	中島日花里さん	女	さかなつり
松江市立揖屋小学校	4	角田 ゆめさん	女	大漁だ
出雲市立鶴鷺小学校	4	眞野 純平くん	男	鶴鷺の海
松江市立持田小学校	6	上野 天也くん	男	大声の海
松江市立雑賀小学校	5	福寄孝乃助くん	男	海

◆佳作 (18名)

学校名	学年	氏名	性別	題名
出雲市立塩冶小学校	1	三島 聡太くん	男	たのしいうみ
出雲市立塩冶小学校	2	亀田 芽生さん	女	うみの中はさかながいっぱい
松江市立揖屋小学校	2	寺嶋 陽菜さん	女	とびこみ大会
松江市立津田小学校	2	桑井 亮祐くん	男	海のなかま
西ノ島町立西ノ島小学校	2	服部 睦己くん	男	魚たちのすみか
西ノ島町立西ノ島小学校	2	綿谷 愛美さん	女	海のたたかい
海士町立福井小学校	4	万代 丈くん	男	サザエとったどー
松江市立出雲郷小学校	3	小笹 愛莉さん	女	夕やけ
出雲市立今市小学校	3	荻田 珠里さん	女	魚つりをしたよ
松江市立雑賀小学校	3	遠藤 尚孝くん	男	海の魚たち
出雲市立逢坂小学校	4	鎌田倫太朗くん	男	海の絵
松江市立恵曇小学校	4	山本源之助くん	男	鳴門大橋
出雲市立田儀小学校	5	原田 空憂さん	女	船から見た海
出雲市立荒木小学校	5	廣澤 創くん	男	夢の中言った「かわいいな」
大田市立大代小学校	6	小笠原優里さん	女	漁港
出雲市立長浜小学校	6	大野 瑤樹さん	女	ふるさとの海
出雲市立平田小学校	5	清水 梨音さん	女	キララたぎの海と風力発電
出雲市立逢坂小学校	6	森山みのりさん	女	私が見たおわしの海

【審査委員】

島根大学名誉教授
農林中央金庫岡山支店副支店長
山陰中央新報社地域振興局長

石野 眞 (審査委員長)
佐藤公治郎
須田 泰弘

島根県農林水産部水産課団体・流通 GL
漁業協同組合 J F しまね専務理事

原 史行
永田 正二

漁の声

第10回

おがわ
小川 守さん 25歳（F）しまね島根町支所所属

「出雲国風土記」に佐太大神が生まれた場所と記されている洞窟「加賀の潜戸」のほか、海岸には海食作用によってできた多くの景勝地が点在している島根町。支所水揚の半数以上を占める定置網漁業が盛んな他、一本釣、採介藻、刺網漁など沿岸漁業を中心とする町。今回は昭和35年より家業として定置網を営む家系に生まれ、現在乗組員として活躍する小川さんに浜の声を聞いた。

父親と同じ漁師の道へ

現在三代目社長である父親と共に定置網漁業に従事する小川さんは今年で25歳を迎える若手漁師。

小さい頃から海で育ち、父親に連れられ何度も定置船に乗り漁場へ行って行っているうちに、「いずれは自分も漁師になるんだろうなあ・・・」とぼんやり思いながら学生時代を過ごしていたという小川さんだが、高校を卒業する頃になると、一度は県外に出てみたいという気持ちが強く

なり、研修を兼ね岩手県の栽培センターに就職し社会人として経験を積んだ。

研修を終え地元に戻り家業である定置網漁業の乗組員としてス



タートした頃の感想を尋ねると、「今は慣れたけど、とにかく朝起きるのが苦手で・・・」と、毎朝午前3時過ぎの出港に遅れないようにするこ

言われたことをやることで必死

網揚げから積み込み作業、魚種選別や出荷作業、網仕事などとにかく言われたことをやることで必死だったという当時から、手際よく作業をするのは勿論のこと、新鮮な魚をつくるために『鮮度』を大切にすることを先輩から教わったという小川さんは、出荷作業の中で魚体温の管理を担当している。

限られた時間の中で、水揚げから選別作業の合間に、殺菌冷海水と水



で冷やした魚を体温計で確認しながら、しっかりと下げ、小川さんの合図を待つて箱詰めされる。

「今取組んでいることは間違っていないと思ってるし、必ず（魚価に）繋がるはず」と継続していくことが大切としながらも、「正直これだけ手間を掛けてこの値段？」と思うことも多々あるという。

今まで以上に責任感をもつことができた。

乗組員として2年が経ち、ようやく仕事も覚え慣れ始めた頃、「社長は昔からやりたかったみたいだけど・・・」と漁師直営の鮮魚店を始めることになり、その店の代表責任者として全てを任せられたという小川さ



ん。自社で獲れた魚を扱う漁師直営「あさどれ！新鮮組」では、仕入・販売は勿論のこと、従業員の勤務体制や経理作業の全てを行う。地元をはじめ、市内からの常連さんや料理店からの注文も増え始めたというお店では、美味しい魚の食べ方や簡単な調理方法を紹介しながら、うろこ落としや内臓出し、三枚おろしや刺身まで、お客さんの要望に添えている。店のことを全て任されたことで「特に責任感を持つことができた」



という小川さん。時間的な余裕や身体的にも定置仕事との掛持ちの難しさを感じることはあるが、代表を自分に任せたと父親の気持ちに込めるためにも妥協はしないという。

若者が漁業に就きやすいような雰囲気と環境づくり

「漁師仲間や同級生とお酒を呑むのが楽しみの一つ」という小川さんは、父親ともよく晩酌を交わすという。仕事のことや将来のことを話しているうちに、お互いが熱くなるというところもあればあるというが、やはり全てを知り尽くす父親には全くなかないという。

まだまだ経験不足で覚えることが沢山あるという小川さんは、最近になって特に「後継ぎ」としての意識を持ちながら仕事をしているという。社長である父親からも経営者の立場として言われることや教わることも増えてきたという小川さんに、これからについて尋ねてみると、「とにかく経験を積むこと。それと先輩方が持っている海の知識を学び習得したい」とした上で、将来の目標についても話してくれた。

現在の馬島大敷の操業期間は3月～11月まで。海が荒れる冬場の12月～2月は網を上げて休漁期間となる。



る。この3ヶ月間の収入を確保する為に、規模は小さくても冬場や時化の時に操業できるように漁場と設備がほしいという。

「周年操業ができて年間を通じて収入が安定すれば、就業希望者も自然に増えると思う。特にこの先若い後継者を受入れるためには（収入に）魅力がないと興味も湧かないはず。」
「若者が漁業に就きやすい雰囲気や環境をつくっていくことも必要だと思う。」としっかりと先を見据えた自分の考えを伝えてくれた。

最後に、自ら作成したホームページの中の「まもちゃん日記」も頻繁に更新していきたいと目標を付け加えてくれた小川さん。終始明るく笑顔で取材に応じて頂いた小川さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

浜の出来事

魚食普及・食育活動



魚食普及・食育活動の一環として、各家庭の食卓にいろいろな魚料理が並び、美味しく島根の魚を食べてもらおうことを目的とした「魚料理教室」が各地で開催されました。

地元の魚屋さんや漁協女性部、調理師会から講師を招き、地元で水揚げされる魚やその時期の旬の魚、また雑魚とされる安価な魚を用い、基本的な魚の捌き方やレシピに合わせた調理方法、味付けや保存方法などを教わり、女性陣とは対照的に普段包丁を持ち慣れない男性方は慣れない手つきで悪戦苦闘しながらも出来上がった魚料理を笑顔で味わいました。



□日時：平成23年12月7日
□場所：松江市竹矢公民館
□参加：10名



□日時：平成23年11月1日
□場所：松江市雑賀公民館
□参加：17名



□日時：平成23年10月26日
□場所：サンレディー大田
□参加：29名

信用部からのお知らせ

JFマリンバンクしまねでは、金利がとてもお得な、ローンキャンペーンを実施しております。



HOUSE LOAN CAMPAIGN
住宅ローンキャンペーン
あかみ未来
全期間固定金利型住宅ローン
(当初10年間と、11年目以降の2段階金利)
当初10年間：年1.7%
11年目以降：年2.4%

ご融資金額：
5000万円以内
ご融資期間：
15年以上35年以内
ご使いみち：
新築、購入、リフォーム費用等



マイカーローン
キャンペーン
●期間/平成24年4月27日(金)まで
固定金利型 変動金利型
年2.1%~ 年1.7%~

ご融資金額：500万円以内
ご融資期間：7年以内
ご使いみち：自家用自動車の購入、免許取得費用等



教育ローン
キャンペーン
●期間/平成24年4月27日(金)まで
固定金利型 変動金利型
5年以内 5年超 5年以内 5年超
年2.1% 年2.5% 年1.7% 年2.1%

ご融資金額：500万円以内
ご融資期間：10年以内(元金据置4年6ヶ月可)
ご使いみち：ご入学資金、ご在学資金等

明るい漁村 176号

- ◆皆様からのご意見やご感想、ひとこと随想、また漁村に関する話題などお待ちしております。
〒690-0007 島根県松江市御手船場町575番地
漁業協同組合 JFしまね「明るい漁村」係
※E-mail: shidou@jf-shimane.or.jpまたは、
FAX:0852-27-6130でもお寄せ下さい。
- ◆本誌のバックナンバー(pdf形式)をホームページで公開しています。
<JFしまねWEBサイト>
<http://www.jf-shimane.or.jp/akarui.html>

温かい真心に感謝



【募金・香典返し】
馬場正彦
斉藤 敬
JFしまね大田支所

【年末募金】
水和会(島根県水産課)
島根県漁港漁場整備課
島根県漁船保険組合
全国合同漁業共済組合島根県事務所
JFしまね西郷支所
JFしまね浦郷支所

※平成23年10月から平成24年1月31日
までにご寄付頂いた方々のご芳名を
掲載し、厚くお礼申し上げます。

編集後記

全国各地でインフルエンザが猛威を振るう中、子どもが通う小学校でも流行りだし、次男のクラスも4日間の学級閉鎖となりました。弟が休んでいる姿をうらやましく! ?思いながら登校していく長男のクラスでも欠席者が増え始め、休校まであと1人となった時、それまで元気だった担任の先生がインフルエンザでダウン。当然ながら先生はカウントされず・・・その後皆さんは順調に回復され、長男の良からぬ願いが叶うことはありませんでした。(N)